

出句用紙(番号)

作者名

桃

砂の紋澄めり白露の禪の寺

行灯に人の揺らぎや地藏盆

秋冷や弾痕印すひと柱

秋蟬や生家無人にして帰る

宮跡に鳥の騒々しき残暑

南柯句会

出句用紙(番号2)

作者名 山本

打法(正晴)

兼	秋暑しアルプス席のユニフォーム
〇〇〇	畦切りの銚 の の の 一振 り や り 落し水
〇〇	白桃の産毛確かめ一ッ買ッ
	秋の畦赤きリードや今も手に
ろ	稲光手品師の手は動がさる

出句用紙(番号 3)

作者名 二 晁

○ 台風やありがたき水怖き水

○○ 〇 今日処暑ところしほに「暦れきばかりが先行す

○ 秋出水生きゆくための水ならず

句座果てて笑顔に秋は澄すみめりけり

○ 風といふ残暑見舞ひを纏まとひけり

出句用紙(番号 4)

作者名 関 洋子

〇〇〇	南柯読に付箋残暑者の妣 はは の部屋
	担任は産休に入る い 休暇明け
	風に乗りなびく黄金の稻穂 こかね かな
◎	達筆の糸瓜 へちま の三句死期間近
〇	いつもより飛機高くいて秋燈めり

南柯句会

出句用紙(番号5)

作者名 山下疾風

〇	土壁 つちかべ の家に住みゐる障子貼る
	秋暑 あきあつ しもてあましたる年 とし の功 こう
	お相手は樹木 きき 希林 きりん です菊 きく 贈 おくりもの
	星流 こうた る好女 こにょ 夕得 ゆくとく と誰 だれ か言ふ
〇〇	先祖みなびし濡れにして墓洗ふ

出句用紙(番号6)

作者名山崎たか

		㊦	㊧	
「おかえり」とと刷毛描く秋の虹				
秋の声不意の中夫の声				
緋毛氈のよきの残暑かな				
残暑なお斑鳩の寺畦道も				
残暑かな猫のもふうすり宙を行く				

出句用紙(番号7)

作者名 山本わこ

○	秋近し汚れ厭はぬ室外機
	振り下ろし跳ね上がりたる運動会
○○○	目薬の目玉をそめて秋暑し
○○○	幸せにならないはずのない月夜
○○	とまらせて吸はれるままに蚊の博士

出句用紙(番号 8)

作者名 真一

〇〇	方丈の底に憩ふ秋暑し
◎	露天湯に浴かす残暑の気息さを
	秋立つや貸自転車で行く飛鳥
〇	虫の音や老いたる耳に遠かりき
	窓外の名月爰でし国際線

出句用紙(番号 9)

作者名

近藤和卓

		○	◎ ○	○
	秋涼し照らし出されし大手門	秋 あき 徴雨 ついでり 畝間の草は奔放に	金風や大方丈を抜けて空	髪切りくなほ余りある残暑かな
				バス停のベンチに残る暑さかな

南柯句会

10

115.

出句用紙・作者名・宮本こぼ

バス停に自刺のべニ秋暑し

~~お地蔵は柿を供えて東次郎~~

残暑

たたら

なのお踏鞆を踏んで鉄匂う

おど

秋灯や音符躍りし古スコア

かんぬき

獣除け門を差す秋の山

秋祭り鎮守の森の福引券

11 出句用紙・作者名・富野香衣

○^代遺されし季寄せに付箋秋灯し

○^主○○○夕暮を背負ふ通天閣の秋

螳螂の拳虚空へ振りかぶり

○あの人の名前出てこぬ夜長かな

○○秋暑し臨月肩で息をして

出句用紙・作者名・鮫島しょうん

12

○見送りの母の速さで盆とんぼ
落蟬を間に犬とすれ違ひ
○草丈の低きあたりも秋の風
○○子を引く手ときに緩みて残暑なほ
○○一振りの塩とて粥のよき残暑

出句用紙・作者名・横田清史

13

○ 半袖に軽い後悔秋の朝

○ 暗闇の叢中に虫時雨

桃冷やし丁寧に剥き丸かじり

畑にて挽いで貰ひしとうもろこし

○ 駅までは徒歩か迷ひし残暑かな

作者名 上 田 秋 霜

露草や父に敵はぬことばかり

鹿寄せのホルンの音の秋めきぬ

陽水の調べせつなき、残暑かな

しなやかな指の先まで風の盆

新涼や墨土痕著き、書道展

出句用紙・作者名・岡本へちま

15

〇〇 枝垂れ地に触れて先よりひらく萩

〇 風見鶏に月は絡みて明日は晴

〇 川はさみ向かふは宅地豊の秋

〇 無軌道に街をさまよう残る蟬

~~無軌道の夜霧の脱着~~

高速のバンク、夜霧の脱着

16

出句用紙

白井桃紅

運搬員腰に鈴つけ秋の駅

○ 待ち人來たらず虫の声うるさい

○ 携帯も傘も何処へホ句の秋

④ 虫鳴いて心の闇と共鳴す

リュツクの山盛りチャーム秋暑し

出句用紙(番号 17)

作者名 飯田 守彦

◎◎人	○○○	○○		◎
おのが葉へ光返せり秋茄子	大糸線暮れ行く空は蕎麦の花	遠景の砦より高し秋砦	雪折の岳 ^{トゲ} 嶺 ^{みね} しと霧速し	けセラセラ為す 餅もなき残暑かな

出句用紙(番号 18)

作者名 福田 洸弥

誕生日道路に骸秋暑し

歯を磨き幽体離脱虫り声

椋鳥と般若に経唱える子

◎
○○

秋湿りバの字欠けたるネオン管

稻刈りや瘡蓋の下毛が生える

出句用紙(番号)

19

作者名

及第一途

急雨去り残暑を払ふ夜風かな

去りゆきし人の足音秋夜半

あと六日明治三十五年の秋

病牀の玻璃窓に映る秋夕焼

坂の上枝に五月櫛三つかな

南柯句会

出句用紙(番号)

作者名

太陽

20

天。

稜線の翳りて月の赤らめく

沈黙の残葉にある残暑かな

。。

マクホーシは轉く年の流れ星

主

紫煙めく闇ストロボの稲光

主

秋雨の森林灰色の夜明け

R28
9/3
南柯

南柯句会

○
同窓の残暑見舞いの和紙葉書
ヨレヨレのＴシャツ捨てる残暑かな
地元高勝利の祈り残暑かな
足裏に気配感じる残暑かな
茶殻^{ちやがら}撒^まき藺草^{いぐさ}箒^{ほうき}や夏座敷

出句用紙

作者名 平華

兼		◎ ○	○	
音もなく残暑のかけら空に消ゆ	新涼の家にこもりて耳そうじ	端座して夏を見送る奥座敷	爽秋の飛鳥美人の笑み増して	短冊の墨文字にじむ花信風

出句用紙

~~22~~
23

作者名 藤ふとく

兼		〇〇		
大もまた散歩望まぬ残暑かな	さわやかや朝一番の鳥の声	子等帰りまい老二人今朝の秋	遙けしや畦に延々曼珠沙華	窓に向け夜更けの突進秋の蟬

出句用紙(番号 24)

作者名 文蔵

〇〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
急のと草たれか褒めたる風日和	大かまきり腹をひしゃげー昼日中	押入れがパンツと閉まりー秋の闇	棉吹くや吾子の白歯の生え初むる
			残暑とふ葉書の主の逝きてをり

出句用紙(番号 25)

作者名 米田よし

○	○ ◎ ○			
皺深き不動明王天高し	朝顔や人妻なりし友笑ふ	鎌倉へ首を垂れし蓮の花	売り切れり張り紙ひこつ秋の暮れ	鈴の鳴る鎌倉宮や残暑光

(番号)

花山

14
h
-
-
⑤
26
7
L

26

[illegible]

チエムベと過ぎゆく彼の閑いも憂

啓ちゃんの赤膚山が赤茶ける

勝ち虫のつかずはたれず"夜の秋

秋の風
生々流転
馬鹿ばか鹿か
一付

駅前
の
昼
過ぎ
なる
秋
の
風

南柯句会

出句用紙(番号 27)

作者名

ひろし

〇〇	雑用が減っては増える 残暑かな 九木
〇〇	新聞紙字面も滲む 秋湿り いづら にじ
	諸行無常りずれ 我が身と秋思かな みぞ
	寂しきや 部屋に潜む虫の音 ひょうめり
	思案深け 秋麗 ちらり窓の外